

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-190	22-048	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Population-level risks of alcohol consumption by amount, geography, age, sex, and year: a systematic analysis for the Global Burden of Disease Study 2020 地域、年齢、性別および年ごとの飲酒による健康リスク：2020年世界疾病負担調査の体系的分析		
執筆者		
GBD 2020 Alcohol Collaborators.		
掲載誌		
Lancet. 2022 Jul 16;400(10347):185-235. doi: 10.1016/S0140-6736(22)00847-9.		
キーワード	PMID	
アルコール摂取量、健康リスク、世界疾病負担調査 (GBD)	35843246	
要 旨		
<p>目的：適量のアルコール摂取に伴う健康リスクについては、未だ議論されている。少量のアルコール摂取は、複数の疾患リスクを増加させる可能性がある一方で、一部の疾患リスクを低下させる可能性が報告されている。また、これらのリスクは、地域、年齢、性別あるいは年といった背景に依存すると考えられるため、本研究にて検討した。</p> <p>方法：2020年の世界疾病負担調査 (GBD)のデータを用い、1990-2020年までの21地域における性別・5歳階級別 (15-95歳)のアルコールの最小リスク暴露レベル (TMREL)および非飲酒者等価 (NDE)を推定した。また、NDEに基づき、5歳階級別、国または地域別、性別および年ごとに、有害な量のアルコールを消費している人口を定量化した。</p> <p>結果：アルコール使用の負担加重相対リスク曲線は、地域と年齢によって異なった。15-39歳における TMREL (95%不確実性区間 [UI])は0 (0-0)から 0.603 (0.400-1.00)drinks/日、NDEは0.002 (0-0)から 1.75 (0.698-4.30)drinks/日の範囲であった。40歳以上における負担加重相対リスク曲線はすべての地域で J 字型であり、2020年における TMREL (95%UI)は0.114 (0-0.403)から 1.87 (0.500-3.30) drinks/日、NDEは0.193 (0-0.900)から 6.94 (3.40-8.30) drinks/日の範囲であった。また、有害な量を飲酒している者のうち、59.1 (54.3-65.4)%が15-39歳、76.9 (73.0-71.3)%が男性であった。</p> <p>結論：アルコールの推奨量は、年齢および地域によって異なることが示された。特に若年者を対象としたアルコールに関する介入は、実質的に世界的な健康損失を減少させるために必要である。</p>		